



始めは遮音性を考え上下に世帯を別けたRC3階建ての案を考えましたが、支持地盤30m以上という敷地に逆らって杭を築造すると一〇〇〇万円近い費用が必要となり、スマートな解決方法ではありませんでした。

二世帯住宅特有の世帯間の音の問題、ライフサイクルの違いなど様々な課題をクリアし、建築家自らの経験として語れるシヨールームでありかつ実験の場でありたい。見た目のデザインを追求するのではなく、そこに住む事で織り成す家族の絆、ライフスタイルをデザインするをコンセプトに掲げ計画がスタートしました。

敷地は東京都荒川区。緩和された日影規制により近隣にビルやマンションの建ち並ぶ都心の地である。大通りから一本入った狭い道路に面する敷地は防火地域でかつ軟弱地盤という悪条件であるが、幸運にも南面には分譲マンションの駐輪場が接し都心には十分な光を導いてくれた。施主は私自身。母と姉、我々夫婦の二世帯住宅を厳しい条件下でいかに実現するかが課題でした。

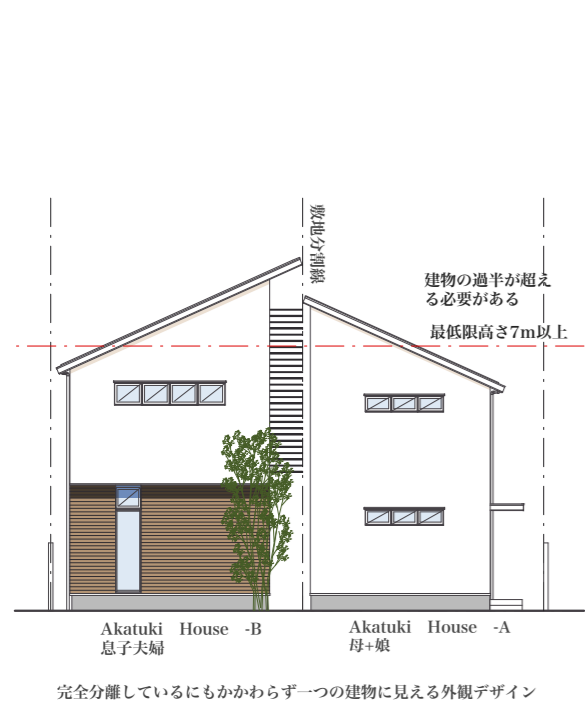
気配を感じあ合える都市型二世帯住宅

Akatuki house 東京都荒川区
設計/Akatuki Design

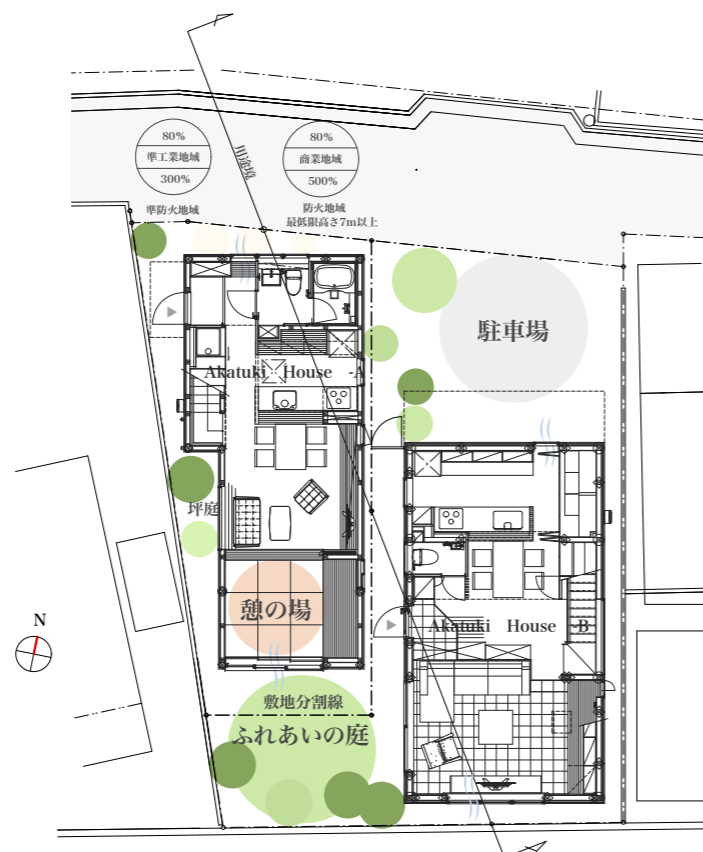


右：子世帯部分のアプローチ。親世帯からの光やにおい、気配を感じながらのアプローチ。外構照明にはLEDライトを使用し省エネでかつ柔らかな光の道で疲れを癒してくれます。

左：隣地の駐輪場の目隠しにイペ材のデッキフェンスで囲い、ハイノキやイロハモミジ、ユキノシタやトクサなど自然風の庭としています。蹲部分には腰掛けることが出来き、秋の紅葉シーズンには枝垂れたモミジに包まれて休む事が出来ます。



Elevation 1 : 200



Site Plan 1 : 200

ふれあいの庭を伝っての行き来や、コミュニケーションを計る為の仕掛けを用意することで、毎日顔を合わさずとも「気配を感じ合える距離」を見事に実現しました。プライベートな生活を保ちつつ、家族の触れ合いを楽しむ暮らしが始まっています。

また、敷地を二分して二棟の建物をずらし配置する事で生まれた残余空間は、双方の関係性を保ち、共有する事で家族の繋がりを意識しやすいように考えられています。また、外観も別々の独立した建物でありながら一つの建物に見えるよう計画する事で、住んでいる家族だけでなく地域に対しても一つの家族として認識されるよう考慮しています。

そこで、敷地の悪条件を逆手に取り、100㎡以下の2階建て住居を2棟建てることで木造準耐火構造にて建築可能とし、地盤・建物に掛ける費用を抑え、遮音性に配慮した都市型の二世帯住宅を実現する事になりました。

Akatuki Design

<http://akatuki.moo.jp/index.htm>

<http://blog.goo.ne.jp/akatuki-design>